# 検査情報月報

2012 5月

横浜市衛生研究所

# 平成24年5月号　目次

【トピックス】

平成23年度　食品中異物検査（昆虫類）のまとめ …… 1

A群溶血性レンサ球菌のT型別について（病原体サーベイランスのまとめ） …… 3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告　平成24年4月 …… 4

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（平成24年4月分） …… 9

# 平成23年度　食品中異物検査（昆虫類）のまとめ

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受け、昆虫類を中心に食品に混入した異物について検査を行っています。平成23年度の食品中異物検査実績は、7検体でした。

依頼された7検体のうち、昆虫類は4検体（チョウ目2検体、ハチ目1検体、ゴキブリ目1検体）で、その他の節足動物2検体、材料の一部1検体でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

| 相談内容・発生状況等 | 写真（状態、体色、大きさ） | 同定結果 | 生態・その他 |
|---|---|---|---|
| アイスコーヒーに虫が混入していた。 | <br>成虫、褐色、約7～8mm | チョウ目（ガ類）の一種 | ガ類の幼虫は農作物、果実、樹木などの害虫で、極めて多食性のものが多い。成虫は灯火に飛来することが多い。 |
| ブリの切り身に幼虫が付着していた。 | <br>幼虫、淡褐色、約5mm | チョウ目（ガ類）の一種 | 同上 |
| 清涼飲料水に虫が混入していた。 | <br>働きアリ、茶褐色、約1.5mm | アメイロアリ属の一種<br>（ハチ目） | アメイロアリ属は、枯枝、腐倒木、腐切株、土中に営巣し、樹上や草上、また落葉層で活動する。花蜜などを餌とする。 |
| 精肉に虫が付着していた。 | <br>成虫、茶褐色、約12mm | チャバネゴキブリ<br>（ゴキブリ目） | ゴキブリ目の中で、世界各地に分布する代表的な屋内性種。<br>ビル、飲食店、病院、事務所など特に冬季に室温が低下しない場所での発生が多い。<br>休眠せず、20℃以上の環境では、いろいろな発育段階のものがみられる。 |

| 相談内容・<br>発生状況等 | 写真<br>（状態、体色、大きさ） | 同定結果 | 生態・その他 |
|---|---|---|---|
| 給食のじゃこご飯に異物が混入していた。 | <br>幼体、乳白～灰色、約14mm | 等脚目（ウオノエ科）の一種<br>（その他の節足動物） | ウオノエ科の多くは海水産。 魚類寄生性で、ひれ、口腔、えらに付着する。 |
| 給食のちりめんじゃこ入り海草サラダに異物が混入していた。 | <br>幼体、灰色、約10mm | 等脚目（ウオノエ科）の一種<br>（その他の節足動物） | 同上 |
| 皿うどんを食べていたところ、キャベツに昆虫の脚のようなものが付着していた。 | <br>茶褐色、約24mm | 材料の一部 | 昆虫類の脚特有の節や毛などはみられず、繊維質状であった。材料（野菜類）の一部と思われた。 |

【 検査研究課 医動物担当 】

# A群溶血性レンサ球菌のT型別について
# （病原体サーベイランスのまとめ）

A群溶血性レンサ球菌感染症は、五類感染症（劇症型溶血性レンサ球菌感染症は全数把握疾患、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は小児科定点把握疾患）の対象疾患であり、また病原体サーベイランスの対象となる疾患になっています。これら疾患の起因菌は、*Streptococcus pyogenes* であり、劇症型は手足の筋肉等の軟部組織に壊死性の炎症を伴う重篤な症状を呈します。咽頭炎は主に小児に多く見られ、その他に扁桃炎や猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱等を発症することがあります。

当所では、病原体サーベイランス事業として小児科定点から送付された咽頭炎症状患者の咽頭ぬぐい液からA群溶血性レンサ球菌の分離をおこない、分離された株についてその疫学的指標であるT型別*をおこなっています。

今回は2011年1月から12月までの1年間に分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別* 結果を報告します。2011年1月から12月に受付けた86検体から分離された株は計54株で、TB3264型、T1型、T12型、T28型の順で多く見られました（表）。

TB3264型は、全国的にも2010年から分離比率が上昇した血清型であり、2011年もその流行が続いていたと思われました。

これらの結果は、衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンターに報告しており、全国のデータがまとめられて国立感染症研究所のホームページで報告されます[1)]。

表　病原体サーベイランス検体から分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果

| 菌型 | T1 | T3 | T4 | T12 | T25 | T28 | TB3264 | 型別不能 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011年1～12月 | 8 | 4 | 5 | 7 | 2 | 7 | 19 | 2 | 54 |

* T型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在するT蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。

[1)] 国立感染症研究所　第32回衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンター会議資料
http://idsc.nih.go.jp/pathogen/refer/str2010-1.pdf

【　検査研究課　細菌担当　】

# 感染症発生動向調査委員会報告　4月

≪今月のトピックス≫

- 感染性胃腸炎が緑区と神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。

## 全数把握疾患

＜腸チフス＞

1件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。

腸チフス・パラチフスは現在でも、日本を除く東アジア、東南アジア、インド亜大陸、中東、東欧、中南米、アフリカなどに蔓延し、流行を繰り返しています。 わが国でも昭和初期から終戦直後までは腸チフスが年間約4万人、パラチフスが約5,000人の発生がみられていました。そして、1970年代までには環境衛生状態の改善によって、年間約300例の発生まで減少しました。その後さらに減少し、1990 年代に入ってからは腸チフス・パラチフスを併せて年間約100例程度で推移しています。そのほとんどは海外からの輸入事例で、海外旅行が日常化したことにより増加傾向にあります。腸チフス、パラチフスの治療には、現在ではニューキノロン系抗菌薬が第一選択薬として使われていますが、インド亜大陸の渡航者から薬剤耐性菌が多く分離されており、注意が必要です。

◆腸チフス・パラチフスとは（国立感染症研究所H.P.）

http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ta/typhi/392-encyclopedia/440-typhi-intro.html

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

2件（O157 VT2、O165 VT2）の報告がありました。いずれも飲食店での喫食状況を確認しましたが、同行者等に有症状者等を認めませんでした。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf

＜A型肝炎＞

2件の報告がありました。周囲の有症状者はおらず、明らかな感染原因は不明です。

＜E型肝炎＞

50代の報告が1件ありました。中国湖北省での経口感染が推定されています。全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常があり、血液からのPCR法による遺伝子検出で診断されました。生肉や獣肉などの喫食歴はありませんでした。

E型肝炎は経口感染する疾患で、患者の便の中に出てきたE型肝炎ウイルスが人の口の中に入って主に感染します。飲み水が便によって汚染されているような場合に集団感染が起こりやすくなります。中国・インド・ネパール・パキスタンなどのアジアの国々、メキシコ、中東・アフリカの国々ではE型肝炎が多く発生しており、旅行の際は飲み水に注意が必要です。また、国内での感染では、推定感染地域が国内とされている56例（1999年4月～2004年11月）を調査したところ、届出に飲食物の記載があった22例の内訳は、イノシシ8例（肉4、肝臓3、心臓1）、ブタ9例（生肉2、肝臓5、腸2、横隔膜1、胃1）、シカ6例（生肉4、その他2）、カキ・タチ（タラの精巣）1例となっており（一部重複例あり）、生肉や内臓の喫食が関連していました。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を喫食する場合には十分加熱することが大切です。E型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5-4.0％ですが、妊婦の場合では、17-33％と高く、注意が必要です。

◆E型肝炎とは（国立感染症研究所H.P.）
http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/hepatitis/hepatitis-e.html
◆E型肝炎について（横浜市衛生研究所H.P.）
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hev1.html

＜マラリア＞
1件の三日熱マラリアの報告がありました。インドでの感染が推定されています。

＜アメーバ赤痢＞
腸管アメーバ症2件の報告がありました。1件は国内での異性間性的接触による感染、もう1件は国内での経口感染（具体的な感染源不明）が推定されています。

＜後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）＞
1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触及び静注薬物使用による感染が推定されています。

＜ジアルジア症＞
1件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。

## 定点把握疾患

平成24年3月19日から平成24年4月22日まで（平成24年第12週から平成24年第16週まで。ただし、性感染症については平成24年3月分）の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

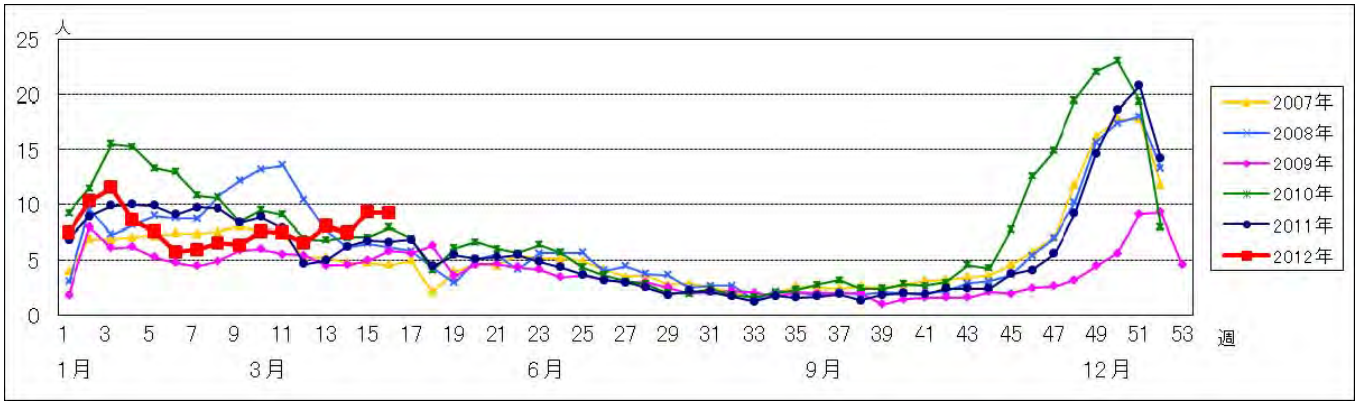
平成24年　週－月日対照表

| | |
|---|---|
| 第12週 | 3月19日～25日 |
| 第13週 | 3月26日～ 4月 1日 |
| 第14週 | 4月 2日～ 8日 |
| 第15週 | 4月 9日～15日 |
| 第16週 | 4月16日～22日 |

### 1　患者定点からの情報

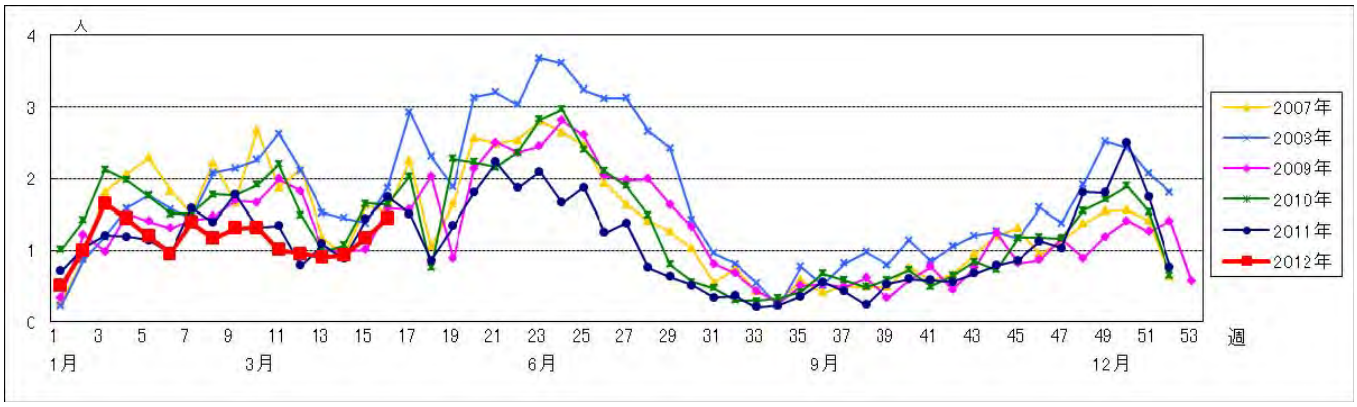
市内の患者定点は、小児科定点：92か所、内科定点：60か所、眼科定点：19か所、性感染症定点：27か所、基幹（病院）定点：3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜感染性胃腸炎＞
市全体では第16週では9.20ですが、緑区では26.20と警報レベルです。また、神奈川区では18.00と終息基準値の12.00を上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。
◆横浜市衛生研究所：次亜塩素酸の詳しい使用方法
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

市内全体では、第16週1.45と落ち着いていますが、第14週の0.93から僅かに上昇しています。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので注意が必要です。




＜百日咳＞

市全体では第16週0.04と落ち着いていますが、中区で1.50と警報レベルとなっています。

＜性感染症＞

3月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が14件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。

＜基幹定点週報＞

マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第13週0.71、第14週0.62、第15週0.71、第16週0.79と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第13週では定点あたり0.33、14週0.33、15週0.00、16週0.67と、前シーズンの第13週0.00、第14週0.00、第15週0.00、第16週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞

3月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

## 2　病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点54件（鼻咽頭ぬぐい液45件、ふん便9件）、眼科定点1件（眼脂）、基幹定点9件（鼻咽頭ぬぐい液5件、ふん便2件、髄液2件）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ17人、上気道炎14人、胃腸炎9人、下気道炎8人、発疹症3人、ヘルパンギーナ、手足口病、耳下腺炎各1人、眼科定点は急性出血性結膜炎1人、基幹定点は意識障害、心筋炎各2人、伝染性単核球症1人でした。

5月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者16人からインフルエンザウイルスAH3型（3人)とインフルエンザウイルスB型（13人）、と上気道炎患者4人からアデノウイルス2型（3人)とアデノウイルス4型（1人）、ヘルパンギーナ患者1人からヘルペスウイルス1型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の胃腸炎患者7人からロタウイルスA群、下気道炎患者1人からアデノウイルス4型、手足口病患者1人からコクサッキーウイルスA6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【　検査研究課　ウイルス担当　】

＜細菌検査＞

4月の感染性胃腸炎関係の受付は、 基幹定点から菌株受付が17件、定点以外の医療機関等からは7件あり、腸管出血性大腸菌（O157:H7、VT2、O165:H-,VT2）、腸管病原性大腸菌（O128：H2）、チフス菌、サルモネラが検出されました。

サーベイランスの検体受付は小児科定点から12件で、A群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌が検出されました。基幹およびその他の医療機関等からは3件で、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が検出されました。

（次ページに表）

表　感染症発生動向調査における病原体検査（4月）

感染性胃腸炎

| 検 査 年 月 | 4月 | | | 2012年1月～4月 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 定点の区別 | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 件　数 | 0 | 17 | 7 | 0 | 83 | 16 |
| 菌種名 | | | | | | |
| 赤痢菌 | | | | | | 2 |
| 腸管病原性大腸菌 | | 1 | | | 1 | |
| 腸管出血性大腸菌 | | | 2 | | | 6 |
| 腸管毒素原性大腸菌 | | | | | | |
| 腸管凝集性大腸菌 | | | | | | |
| チフス菌 | | 1 | | | 1 | |
| パラチフスA菌 | | | | | 2 | |
| サルモネラ | | | 2 | | 20 | 3 |
| カンピロバクター | | | | | | |
| 黄色ブドウ球菌 | | | | | | |
| コレラ菌 | | | | | | 1 |
| NAGビブリオ | | | | | | |
| クロストリジウム | | | | | | |
| 不検出 | 0 | 15 | 3 | 0 | 59 | 4 |

その他の感染症

| 検 査 年 月 | | 4月 | | | 2012年1月～4月 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 定点の区別 | | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 件　数 | | 12 | 1 | 2 | 38 | 10 | 22 |
| 菌種名 | | | | | | | |
| A群溶血性レンサ球菌 | T1 | | | | 4 | | |
| | T6 | | | | 1 | | |
| | T4 | 1 | | | 2 | | |
| | T12 | 3 | | | 8 | | |
| | T25 | | | | | | |
| | T28 | | | | 2 | | |
| | T B3264 | 1 | | | 3 | | |
| | 型別不能 | | | | | | |
| B群溶血性レンサ球菌 | | | | | | | 11 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | | | 1 | | | 3 | |
| バンコマイシン耐性腸球菌 | | | | | | 1 | 2 |
| インフルエンザ菌 | | 2 | | | 6 | | 2 |
| 肺炎球菌 | | 1 | | | 1 | | |
| 黄色ブドウ球菌 | | | | | 1 | | |
| 破傷風菌 | | | | | | 1 | |
| 不検出 | | 4 | 0 | 2 | 10 | 5 | 7 |

＊：定点以外医療機関等（届出疾病の検査依頼）

T（T型別）：A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　検査研究課　細菌担当　】

# 衛生研究所WEBページ情報

（アクセス件数・順位　平成24年3月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事　平成24年4月分）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年3月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年4月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1　利用状況

### (1) アクセス件数（平成24年3月）

平成24年3月の総アクセス数は、135,392件でした。主な内訳は、感染症67.9%、食品衛生11.5%、保健情報5.9%、検査情報月報3.6 %、生活環境衛生2.7 %、薬事1.1%でした。

### (2) アクセス順位（平成24年3月）

3月のアクセス順位（表1）は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」でした。

マイコプラズマ肺炎は、年間を通じて常にアクセス件数が多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第4週（1月23日～29日）から、0.80前後で横ばいでしたが、第11週（3月12日～18日）以降連続して減少しています。しかしまだ、依然として過去5年間の同時期と比較して、かなり多い状態です。

表1　平成24年3月　アクセス順位

| 順位 | タイトル | 件数 |
|---|---|---|
| 1 | マイコプラズマ肺炎について | 5,591 |
| 2 | 衛生研究所トップページ | 3,938 |
| 3 | ロタウイルスによる感染性胃腸炎について | 3,703 |
| 4 | ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について | 2,563 |
| 5 | サイトメガロウイルス感染症について | 2,534 |
| 6 | クロストリジウムーディフィシル感染症について | 2,512 |
| 7 | B群レンサ球菌（GBS）感染症について | 2,422 |
| 8 | 感染症発生状況 | 2,279 |
| 9 | 健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について | 2,035 |
| 10 | ポリオ（小児麻痺・急性灰白髄炎）について | 1,974 |

データ提供:総務局IT活用推進課

**厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ＆A（一般の人向け）　平成23年12月**

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html

「健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について」が、初めて10位以内に入りました。妊娠及び出産に際しては、平常時以上に健康に対する意識が高くなっていることがうかがえます。

「ポリオ（小児麻痺・急性灰白髄炎）について」は、本市での4月の定期接種の前であることと不活化ポリオワクチンの導入時期についての関心の高まりから、アクセス件数が増加したのではないかと思われます。

**厚生労働省のポリオとポリオワクチンの基礎知識（平成24年3月15日改定）**

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/qa.html

厚生労働省作成のリーフレット(保護者のみなさまへ)(平成24年5月改定)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/leaflet_120510.pdf

### (3) 電子メールによる問い合わせ (平成24年4月)

平成24年4月の問い合わせは、2件でした。

表2 平成24年4月 電子メールによる問い合わせ

| 内容 | 件数 | 回答部署 |
|---|---|---|
| クロストリジウム-ディフィシル感染症について | 1 | 感染症・疫学情報課 |
| 予防接種について | 1 | 感染症・疫学情報課 |

## 2 追加・更新記事 (平成24年4月)

平成24年4月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表3)。

表3 平成24年4月 追加・更新記事

| 掲載月日 | 内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 4月 2日 | 学校感染症について | 更新 |
| 4月 5日 | 横浜市インフルエンザ流行情報 12号 | 追加 |
| 4月11日 | 感染症に気をつけよう(4月号) | 追加 |
| 4月16日 | ボツリヌス症について | 更新 |
| 4月18日 | 横浜市における麻しん患者届出状況(2011年) | 追加 |
| 4月23日 | ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について | 更新 |

【 感染症・疫学情報課 】